

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090200185	
法人名	社会福祉法人ハーモニー	
事業所名	グループホームハーモニー笹部	
所在地	長野県 松本市 笹部 2丁目6番 54-2号	
自己評価作成日	平成26年12月5日	評価結果市町村受理日 平成27年3月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成27年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様が、「なんだかんだ言たって、自分ちが一番さあね。だけども、あの姉さんや兄さんが一緒にいてくれるならしょうがねえ、もう少しココに居てみるか、なんて思ってくれる、居心地が良くて安心感のあるホームを目指しています。今はお年寄りだけでも、私達が出会う以前からの「人生の積み重ねがある歴史を持っている人」であることを忘れずに関わることが大切になっています。

そして日々何気なく過ごしていると見落としてしまいそうな、小さいけれど涙がでるくらいうれしい「幸せ」を見つけて、お年寄りや仲間たちと一緒に大きな喜びにかえて分かち合いたいと思っています。

また、自分達の仕事を通して「介護の仕事ってかっこいいね」「やっぱりプロは違うよ」と世間に発信していける存在を目指していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ハーモニー笹部」は住宅街の中にあり、近隣には大型商店街が点在し、町の中での暮らし(地域に触れ合いながら)や生活感が得られる好環境の中に設置されている。社会福祉法人ハーモニーを母体にした法人施設との連携のもと良好な運営に努めている。法人理念を基盤に事業所独自の方針「安心できる「家」をつくります」を作成し、利用者との「信頼関係」の構築と「優しさ」、「笑い」を大切に地域の一人としての「家」になるよう情報の発信や交流に努める旨を記載、具体化した内容で伝えている。管理者は長い経験と専門性を活かし職員全員で意見交換を行い、利用者一人ひとりが安心して、自分らしく暮らし続けていけるよう、暮らし方に配慮した介護計画書を作成し職員間で共有して、質の高いケアサービスの提供に向け取り組まれている。なお、看護職員の配置により日常の健康管理や緊急時の協力医等との密な連携、重度化や看取りへの支援の取り組みが確立しており、利用者、ご家族の大きな安心と安定につながっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1F)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所の理念を基に、常に自分たちがどんなことを大切にしてケアをおこなっていききたいか、またどのようにして地域に貢献していくかを話し合い、日々の生活に結びつくよう心がけている。また、今年度は法人理念見直しに伴い、事業所方針も見直す機会となった。</p>	<p>母体法人理念「私達は、お客様がその人らしく生きることを支えます」を基盤に、事業所独自の方針を作成されている。方針を具体化した内容で職員に伝え、職員との対話の中で話し合われている。毎日の朝礼時に理念を唱和して確認しあいケアサービスの実践に活かされている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近所で書道教室を営む方が月1回ボランティアで書道クラブをおこなってくれ、逆にそこに通う利用者もいる。また、ホームの行事の際に踊りを披露してくれたり、季節の詩を書いてもってきてくれる方もいる。今年は地区の大きな行事には、利用者をお連れしてほとんど参加することができた。</p>	<p>利用者の散歩や買い物、行事(運動会、お祭り、文化祭等)の折に地域の人々とのふれ合いやご近所の方から野菜などのおすそ分け、降雪時の雪かき支援等を受けている。なお、実習生(高校生)やボランティアの受け入れ等地域との交流も図られている。また、地域ケア会議に職員が参加して事例発表をされるなど、地域との意見交換の機会が得られ交流を持たれている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>鎌田地区の「地域ケア会議」に参加し、ホームの入居者の事例を発表する機会をいただいた。このことにより、会議に参加した、地域の幅広い方々に情報を発信し意見を得ることができた。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の会議では、活動内容・事故やひやりはっと・職員研修の報告等をおこない、地域の方やご家族から意見をいただき、サービス向上につなげている。参加するご家族も開催ごとできるだけ違う方に来ていただいている。</p>	<p>運営推進会議には、ご家族、正・副町会長、民生委員、同業者、包括支援センター職員等が参加して2か月に1回開催されている。事業所の活動状況、入居者状況、事故報告、医療関係、職員研修状況、行事予定等の報告が行われ参加者と意見交換をして、双方向的な会議となっている。</p>	<p>今後更に幅広い立場の人(警察署、消防署、近隣商店主、保育園、小・中・高等)が参加する会議とし、参加メンバーからの意見が事業所のケアサービスの向上につながるよう期待する。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>事故報告や運営推進会議の報告を通じて、様々なアドバイスをいただいている。</p>	<p>「地域ケア会議」に包括支援センター、医師、各事業所、民生委員等が参加して行われており、事例を持ちより課題解決を図っていく取り組みが行われている。なお、事業所の実状やケアサービスの取り組みを伝えアドバイスを得る等協働関係が築かれている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>危険認識の低下のために転倒してしまう利用者などに対して、拘束に頼ることなく常に職員間で話し合いをおこない、環境の整備やケアの工夫によって対応している。</p>	<p>職員は身体拘束の弊害をしっかり認識し、事業所一丸となって身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。環境の整備(センサー使用、鈴使用等)やベッドの位置を変える等利用者一人ひとりの心身の状況を見極めて、身体拘束を必要としないケアに努めている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員には、自身のストレスや疲労からくる何気ない言動が利用者に対する虐待に繋がらないように、自身が発する言葉の影響を意識してもらうよう説明している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度の説明会の参加や、実際に制度を利用している利用者を通じて学んでいる。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時に文書と口頭で全て説明をおこない、その都度の質問にも答えるようにしている。また後日からも様々な質問に答え、納得と理解が得られるように努めている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にご家族に出席していただいたり、市の派遣相談員に来てもらい、意見をいただいている。また家族からは、面会時やケアプラン説明時にも意見や要望を聞くよう心掛けています。意見箱の設置もおこなった。</p>	<p>日常の関わりの中や市の派遣相談員による利用者の希望や意見の聴き取りが行われている。なお、ご家族が事業所へ訪問されたおりにご家族の意見を聞き運営に反映されている。また、事業所玄関に意見箱を設置してご家族等の意見の表出に配慮されている。しかし意見が投函されていないことを伺った。</p>	<p>意見箱が活用されるよう、アンケート方式などの工夫に期待する。</p>
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のユニット会議などで積極的に話し合っている。またユニットごとに出た意見を、ユニットリーダーを通じて確認するようにしている。</p>	<p>各ユニットリーダーが職員との関わりの中での意見や提案を聞くとともに職員面談を行っている。なお、リーダー層を管理者が面談して意見や提案を運営に反映されている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を基に、年2回の人事考課と自己研鑽や研修参加の有無を賞与等に反映させている。また働きやすい環境整備のために、職員の意見を聞くようにしている。年1回の職員満足度アンケートも実施している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の告知や参加機会の確保をおこない、また必要と認められた研修に関しては研修費と研修日の法人負担をおこなっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の共同勉強会に参加したり、研修時などに他事業所の方々と積極的に情報交換をおこない、サービスに反映させるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階ではお互いを知るために、積極的で意図的なコミュニケーションをおこない、職員を含むホームという環境が「安心できる場所」と思ってもらえるようこころがけている(不安の軽減)。そこから本人の要望を様々な視点から捉え、ケアプランにも反映させている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の、本人の生活に対する意向や家族の悩み等を聞き、家族が安心して本音を話せる様、スタッフ全員がその気持ちを把握できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の段階で入所に頼らないサービス利用の可能性も含めて説明を行うこともある。またサービス利用開始時の混乱の強い時期は、常に精神状態も変化していくので、職員間の情報の共有に心掛け、不安軽減に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していく者として協力し合える環境作りに努めている(日常の中で悩みなどを相談しあったり、様々な事を教わったり、一緒に家事等をおこなうことで関係を築いている)。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時から「一緒に支えていく立場である」ということを家族に伝えている。行事等、家族と利用者が関わる機会を設け、面会時には利用者の状況を伝えて、情報の共有に努めている。可能なご家族には一緒に外出することを勧めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの店や場所などへ、買い物支援やドライブを通じて行くよう心掛けると同時に、可能なかぎり家族にも対応してしてもらっている。人間関係も継続できるよう手紙を出したり、訪問をお願いしている。	利用者の馴染みの店や場所(西友、綿半、お墓参り、自分の家めぐり等)への訪問支援を積極的に行っている。なお、電話の取次ぎや手紙(年賀状等)の支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を考慮した座席配置や、認知症の状態やストレスの度合いに応じた職員の関わりなどで孤立しない支援をおこなっている。その方の個性が良い方向に発揮できる時や場所を考えている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が完全に終了した例はまだないが、サービスが終了した場合でもその後の相談や支援をおこなう体制はできている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の希望を本人や家族と話し、ケアカンファレンスに反映させている。意向の把握が困難な場合でも、日々の関わりや生活歴などから本人本位になるよう検討している。ケアのヒントとなるような言動はカンファレンスで話し合い、プラン等に反映させている。</p>	<p>利用者一人ひとりのコミュニケーションの特徴を職員全員でつかみ、利用者に理解できる言葉で伝わるよう話をして、希望や意向の把握に努めている。なお、意向の把握が困難な場合にはご家族や関係者より情報を得るなどして支援につなげている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前面談の段階から、以前からの生活環境等をきいて、入所時から習慣などが継続できるよう努めている。また、ご本人の話や、機会ある毎に家族などから情報を得て、今までの生活に近づけるように努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>常に変化する精神的・身体的変化を見逃さないようにして記録に残すことで情報を共有し、「その時」に有する力を最大限発揮できるように心掛けている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>職員にはそれぞれに「受け持ちの利用者」を決め、担当職員とケアマネージャーが中心になり、全職員からの日頃のケアの情報と家族・本人の要望をもとにケアプランを作成している。見直し・更新は3か月毎に実施している。</p>	<p>担当職員による利用者支援が行われており、介護計画作成に当たり担当職員とケアマネージャーが中心になって、アセスメントを含め職員全員で意見交換を行いカンファレンス、モニタリングをして利用者やご家族の意向を反映した介護計画を作成されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の記録と全職員共通の記録ノートを活用することでケアに活かしている。また「ひやりはっと」「転倒報告書」などを記入することで共通の対応ができるように心がけている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>可能なかぎり個別の好みに応じた食材の提供をおこなったり、好みの時間の入浴に対応している。また外出サービスや外食サービス、買い物支援、近所の書道教室への送迎、馴染みの交流会への参加支援などに取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域にある商店や公共機関などの把握に努め、利用者の希望や目的にそって利用し、安全と暮らしの楽しみに繋げている。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所以前からのかかりつけ医を希望している方は家族の協力を得ながら継続し、結果報告をしてもらう。かかりつけ医以外の受診が必要な場合は家族と話し合って受診の支援をおこなっている。</p>	<p>利用前のかかりつけ医を継続的に受診されている利用者のご家族による受診支援が行われており、結果報告を受けている。また、事業所の協力医による月2回の往診や必要時には電話対応も可能であることを伺った。事業所には看護師が配置されており、日常の健康管理や医療機関との連携が行われている。利用者、ご家族の安心、安全につながっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員の常勤配置があり、日々の利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援をおこなっている。介護職員は日々のケアの中で異変をキャッチし、看護職員と連携して病状の重度化防止に努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院や検査などの手配、退院後のサポート等協力医の援助によりスムーズにおこなえている。また退院の際は本人の心身の変化に関する情報を事前にもらい、それに対応できるよう準備をおこなう。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時にターミナルケアの在り方を家族と話し合い、その時点での家族の意向も文書でいただくようにしている。また、状況に応じてその都度担当医や家人と話し合いをして対応している。</p>	<p>入所契約時に「グループホーム ハーモニー笹部における看取りに関する指針」について説明をし、「グループホーム ハーモニー笹部 急変時等の対応について(事前確認書)」を作成されている。なお、状況変化に応じた繰り返しの話し合いや段階的な合意を得てチームで支援に取り組まれている。</p>	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で救急救命の勉強会をおこなっている。また緊急時のマニュアルやフローチャートを全職員がわかるように掲示している。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や防災会社を交えた防災訓練をおこない、関連機器の使用法を習得するとともに、お客様の避難経路の確認や避難誘導を実際におこなう。	年2回消防署や防災会社参加のもと防災訓練(夜間想定)を実施されている。新人職員中心に消火器等の取り扱いを習得されている。なお、地震、水害等の避難誘導について勉強会を開催し検討中であることを伺った。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現在のお客様の姿だけを見て接するのではなく、病気によって見えにくくなっている「その人」を常に意識し、病気の症状に捕らわれない接し方に努めている。そのために過去の情報も大切に、病気以前の「その人」が理解できるよう心がけている。	個人情報保護を含め、運営規程や利用契約書に記載されており、事業所として利用者の情報の個別性や守秘義務について十分理解し、責任ある取り扱いと管理をされている。また、接遇研修を実施して利用者にとっての誇りやプライバシーが見極められ、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや対応に努めている。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声掛けをし、本人の希望に沿うよう努力している。又、意思表示が困難な利用者でも、日頃のケアから得た情報をもとに、想いを把握するように努めている。話しやすい環境(プライベートな空間等)の工夫もおこなっている。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で自分の時間やペースを優先させることを基本として、その中で皆さんと一緒に過ごす時間をつくるようにしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はその方の好みを知る家族に用意してもらったり、買い物の際に本人に選んでもらうこともしている。好みの色や似合う服装、好きな髪形など「そのひとらしい」身だしなみの把握にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節の食材を大切に、馴染みの料理や行事食にも力を入れている。調理の手伝い、料理の盛り付けや後片付けなどレベルに合わせて様々な利用者に関わってもらい、生活の一部になるよう心掛けている。また食事は職員も同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう心掛けている。</p>	<p>事業所菜園で収穫した旬の食材を献立に採り入れようという意識が職員に働いており、季節感、食欲、食べる動作を引き出すような献立の工夫がされている。利用者とともに食事に関する一連の作業を通じた利用者の力の発揮できるよう支援が行われている。職員と一緒に食事を摂ることで和やかな雰囲気が見られた。言葉がけ等、さりげないサポートもされている。なお、春の七草、冬至南瓜等季節に合った献立にも配慮されている。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個人の嗜好や食べられる量を把握することで、過剰摂取や摂取不足を防いでいる。また栄養補助食品など、個々の状態を考慮した摂取方法も実施している。ホームの1ヶ月の食事データをもとに、法人内の管理栄養士から指導を受けて現場に活かしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>十分なブラッシングができない方は職員が仕上げ磨きをおこなっている。歯牙や歯肉など口腔内の状態に注意し、トラブルに早期対応できるようにしている。(口内炎や義歯の不具合等)</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>個人の排泄パターンの把握に努め、失敗を減らせるようトイレへの声掛け・誘導をおこなっている。手順の不安な方には都度付き添い、手順の確認等支援している。立位困難な場合でも本人の意思を尊重し、二人介助等で対応し自立に向けての生活リハビリをおこなっている。</p>	<p>排せつの自立は生きる意欲や自信の回復、そして食や睡眠等の身体機能を高めることにつながることを職員全員が認識されており、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握して、排せつの自立に向けて支援されている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便状況の観察をおこない、牛乳やヨーグルトの摂取、繊維の多い料理作り、水分調整などに配慮し、散歩や体操など適度な運動を通して便秘の予防をおこなっている。また、下剤によるコントロールは便秘期間や量・性状などから、個々に合った必要最小限にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴の曜日は決まっているが、本人の都合や体調に合わせて入浴日や回数は変更もしている。できるかぎり希望時間に入浴できるよう配慮もしている。季節の行事(菖蒲やゆず)もおこなっている。	基本的に曜日や時間が決められ週2回の入浴支援を行っている。なお、利用者の状況に応じ柔軟に対応されている。看護師による利用者一人ひとりの心身の状態を丁寧に点検し、入浴の可否を見極められ利用者が気持ちよく安全な入浴ができるよう支援されている。菖蒲湯やゆず湯等季節風呂を用意してくつろいだ気持ちで入浴できるよう配慮されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンや体調を考慮し、個々に合わせた就寝・起床時間に対応している。また体調や疲労、前夜の睡眠の有無を考慮した午睡もすすめている。夜間不眠時などは付き添いを行うなどして、安心して休めるような支援をおこなっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬を使用する場合は、その作用・副作用を説明するようにしている。また、薬の使用量の変更、薬自体の変更があった場合でも、その副作用も考慮して様子観察し、看護師に報告して服薬調整に反映させている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた得意分野を活かし、畑仕事・家事・手芸・料理等、個々の楽しみや、生活の張り合いになるよう支援している。また、家事などで習慣にできる事は同じことが継続できるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方のニーズに添って買い物や外出の支援、レクリエーションでのドライブ、外食等をおこなっている。また、家族やなじみの方の協力を得ることで、旅行や外泊をおこなっている。	入居者ひとり一人に合わせた楽しみや張り合いになる事を見つけて、外に出かける機会を積極的に設け支援されている。なお、事業所にこもりがち(特に梅雨、冬季等)になってしまうのをそのままにしないで、出かけるチャンスをつけている。(散歩、買い物、ドライブ、外食、行事、お墓参り、自分の家めぐり等)また、ご家族や支援団体の協力を得て旅行や外泊支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭を自己管理できる方は自分で財布を持っていただき、そうでない方もホームで財布を預かっていることへの理解をいただき、いつでも使えることの説明をおこなっている。買い物の際も自分で支払ができるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>遠方の家族や親類に近況報告を含め本人から手紙を出したり、年賀状と一緒に書くなどの支援を実施している。電話は家族と話し合っ、本人の希望に沿ってかけられるように支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>落ち着いたある雰囲気がつくれるよう心掛けている(スタッフ自らも環境の一部であると認識して)その時期にある草花、季節感のある装飾、利用者の作品等の展示などに心掛けている。</p>	<p>共用空間は季節の花(シンビジウム等)や季節をテーマにした貼り絵、繻玉飾り、羽子板、だるま等が飾られ全体的に殺風景ではなく、いるだけでほっと安らぐような家庭的な温かさと季節感が得られるよう工夫をされている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>その方の居心地が良い場所の把握と、そこで過ごせる支援をおこなっている。人間関係のトラブルやマンネリ化を防ぐ意味で、意図的に違う席で過ごしていただいたり、席替えをおこなうようにしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昔から使っていた馴染みの家具などがある場合は可能なかぎり持ち込むようお願いしている。家族の写真や好きなものを飾ることで安心できる空間になるよう心掛けている。</p>	<p>利用者がそれまで住んでいた場所で眺めたり、触っていたり、道具として使っていた物、着ていた服等、利用者にとってかけがえのない品をご家族から教えていただき、居室に持ち込めるよう支援をされている。(仏壇、家具、テレビ、衣服類、家族写真、観葉植物等)</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>家族の了解が得られた方は居室前に名前を掲示したり、「お手洗い」などのわかり易い表記にしている。また居室内においては、転倒に対する危険意識が低下している方でも安全に生活できるような家具配置などを工夫している。</p>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所の理念を基に、常に自分たちがどんなことを大切にしてケアをおこなっていききたいか、またどのようにして地域に貢献していくかを話し合い、日々の生活に結びつくよう心がけている。また、今年度は法人理念見直しに伴い、事業所方針も見直す機会となった。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近所で書道教室を営む方が月1回ボランティアで書道クラブをおこなってくれ、逆にそこに通う利用者もいる。また、ホームの行事の際に踊りを披露してくれたり、季節の詩を書いてもってきてくれる方もいる。今年は地区の大きな行事には、利用者をお連れしてほとんど参加することができた。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>鎌田地区の「地域ケア会議」に参加し、ホームの入居者の事例を発表する機会をいただいた。このことにより、会議に参加した、地域の幅広い方々に情報を発信し意見を得ることができた。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の会議では、活動内容・事故やひやりはっと・職員研修の報告等をおこない、地域の方やご家族から意見をいただき、サービス向上につなげている。参加するご家族も開催ごとできるだけ違う方に来ていただいている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>事故報告や運営推進会議の報告を通じて、様々なアドバイスをいただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>危険認識の低下のために転倒してしまう利用者などに対して、拘束に頼ることなく常に職員間で話し合いをおこなひ、環境の整備やケアの工夫によって対応している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員には、自身のストレスや疲労からくる何気ない言動が利用者に対する虐待に繋がらないように、自身が、発する言葉の影響を意識してもらうよう説明している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度の説明会の参加や、実際に制度を利用している利用者を通じて学んでいる。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時に文書と口頭で全て説明をおこなひ、その都度の質問にも答えるようにしている。また後日からも様々な質問に答え、納得と理解が得られるように努めている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にご家族に出席していただいたり、市の派遣相談員に来てもらひ、意見をいただいている。また家族からは、面会時やケアプラン説明時にも意見や要望を聞くよう心掛けている。意見箱の設置もおこなった。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議などで積極的に話し合っている。またユニットごとに出た意見を、ユニットリーダーを通じて、確認するようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を基に、年2回の人事考課と自己研鑽や研修参加の有無を賞与等に反映させている。また働きやすい環境整備のために、職員の意見を聞くようにしている。年1回の職員満足度アンケートも実施している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の告知や参加機会の確保をおこない、また必要と認められた研修に関しては研修費と研修日の法人負担をおこなっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の共同勉強会に参加したり、研修時などに他事業所の方々と積極的に情報交換をおこない、サービスに反映させるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階ではお互いを知るために、積極的に意図的なコミュニケーションをおこない、職員を含むホームという環境が「安心できる場所」と思ってもらえるようこころがけている(不安の軽減)。そこから本人の要望を様々な視点から捉え、ケアプランにも反映させている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の、本人の生活に対する意向や家族の悩み等を聞き、家族が安心して本音を話せる様、スタッフ全員がその気持ちを把握できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前面談の段階で入所に頼らないサービス利用の可能性も含めて説明を行うこともある。またサービス利用開始時の混乱の強い時期は、常に精神状態も変化していくので、職員間の情報の共有に心掛け、不安軽減に努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に生活していく者として協力し合える環境作りに努めている(日常の中で悩みなどを相談しあったり、様々な事を教わったり、一緒に家事等をおこなうことで関係を築いている)。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入所時から「一緒に支えていく立場である」ということを家族に伝えている。行事等、家族と利用者が関わる機会を設け、面会時には利用者の状況を伝えて、情報の共有に努めている。可能なご家族には一緒に外出することを勧めている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人のなじみの店や場所などへ、買い物支援やドライブを通じて行くよう心掛けると同時に、可能なかぎり家族にも対応してしてもらっている。人間関係も継続できるよう手紙を出したり、訪問をお願いしている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者の相性を考慮した座席配置や、認知症の状態やストレスの度合いに応じた職員の関わりなどで孤立しない支援をおこなっている。その方の個性が良い方向に発揮できる時や場所を考えている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用が完全に終了した例はまだないが、サービスが終了した場合でもその後の相談や支援をおこなう体制はできている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の希望を本人や家族と話し、ケアカンファレンスに反映させている。意向の把握が困難な場合でも、日々の関わりや生活歴などから本人本位になるよう検討している。ケアのヒントとなるような言動はカンファレンスで話し合い、プラン等に反映させている。</p>		
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前面談の段階から、以前からの生活環境等をきいて、入所時から習慣などが継続できるように努めている。また、ご本人の話や、機会ある毎に家族などから情報を得て、今までの生活に近づけるように努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>常に変化する精神的・身体的変化を見逃さないようにして記録に残すことで情報を共有し、「その時」に有する力を最大限発揮できるように心掛けている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>職員にはそれぞれに「受け持ちの利用者」を決め、担当職員とケアマネージャーが中心になり、全職員からの日頃のケアの情報と家族・本人の要望をもとにケアプランを作成している。見直し・更新は3か月毎に実施している。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の記録と全職員共通の記録ノートを活用することでケアに活かしている。また「ひやりはっと」「転倒報告書」などを記入することで共通の対応ができるように心がけている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能なかぎり個別の好みに応じた食材の提供をおこなったり、好みの時間の入浴に対応している。また外出サービスや外食サービス、買い物支援、近所の書道教室への送迎、馴染みの交流会への参加支援などに取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある商店や公共機関などの把握に努め、利用者の希望や目的にそって利用し、安全と暮らしの楽しみに繋げている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医を希望している方は家族の協力を得ながら継続し、結果報告をしてもらう。かかりつけ医以外の受診が必要な場合は家族と話し合っ受診の支援をおこなっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の常勤配置があり、日々の利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援をおこなっている。介護職員は日々のケアの中で異変をキャッチし、看護職員と連携して病状の重度化防止に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院や検査などの手配、退院後のサポート等協力医の援助によりスムーズにおこなえている。また退院の際は本人の心身の変化に関する情報を事前にもらい、それに対応できるように準備をおこなう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルケアの在り方を家族と話し合い、その時点での家族の意向も文書でいただくようにしている。また、状況に応じてその都度担当医や家人と話し合いをして対応している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で救急救命の勉強会をおこなっている。また緊急時のマニュアルやフローチャートを全職員がわかる場所に掲示している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や防災会社を交えた防災訓練をおこない、関連機器の使用法を習得するとともに、お客様の避難経路の確認や避難誘導を実際におこなう。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現在のお客様の姿だけを見て接するのではなく、病気によって見えにくくなっている「その人」を常に意識し、病気の症状に捕らわれない接し方に努めている。そのために過去の情報も大切に、病気以前の「その人」が理解できるよう心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせた声掛けをし、本人の希望に沿うよう努力している。又、意思表示が困難な利用者でも、日頃のケアから得た情報をもとに、想いを把握するように努めている。話しやすい環境(プライベートな空間等)の工夫もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で自分の時間やペースを優先させることを基本として、その中で皆さんと一緒に過ごす時間をつくるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はその方の好みを知る家族に用意してもらったり、買い物の際に本人に選んでもらうこともしている。好みの色や似合う服装、好きな髪形など「そのひとらしい」身だしなみの把握にも努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を大切に、馴染みの料理や行事食にも力を入れている。調理の手伝い、料理の盛り付けや後片付けなどレベルに合わせて様々な利用者に関わってもらい、生活の一部になるよう心掛けている。また食事は職員も同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう心掛けている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嗜好や食べられる量を把握することで、過剰摂取や摂取不足を防いでいる。また栄養補助食品など、個々の状態を考慮した摂取方法も実施している。ホームの1ヶ月の食事データをもとに、法人内の管理栄養士から指導を受けて現場に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>十分なブラッシングができない方は職員が仕上げ磨きをおこなっている。歯牙や歯肉など口腔内の状態に注意し、トラブルに早期対応できるようにしている。(口内炎や義歯の不具合等)</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>個人の排泄パターンの把握に努め、失敗を減らせるようトイレへの声掛け・誘導をおこなっている。手順の不安な方には都度付き添い、手順の確認等支援している。立位困難な場合でも本人の意思を尊重し、二人介助等で対応し自立に向けての生活リハビリをおこなっている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便状況の観察をおこない、牛乳やヨーグルトの摂取、繊維の多い料理作り、水分調整などに配慮し、散歩や体操など適度な運動を通して便秘の予防をおこなっている。また下剤によるコントロールは便秘期間や量・性状などから、個々に合った必要最小限にしている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>基本的に入浴の曜日は決まっているが、本人の都合や体調に合わせて入浴日や回数は変更もしている。できるかぎり希望時間に入浴できるよう配慮もしている。季節の行事(菖蒲やゆず)もおこなっている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活パターンや体調を考慮し、個々に合わせた就寝・起床時間に対応している。また体調や疲労、前夜の睡眠の有無を考慮した午睡もすすめている。夜間不眠時などは付き添いを行うなどして、安心して休めるような支援をおこなっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>新しい薬を使用する場合は、その作用・副作用を説明するようにしている。また、薬の使用量の変更、薬自体の変更があった場合でも、その副作用も考慮して様子観察し、看護師に報告して服薬調整に反映させている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々に応じた得意分野を活かし、家事・手芸・料理等、個々の楽しみや、生活の張り合いになるよう支援している。また、家事などで習慣にできる事は同じことが継続できるよう支援している。「レクノート」は出来るだけ皆さんが楽しい時間を過ごせるよう、情報共有に役立っている。</p>		
49	(18)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>その方のニーズに添って買い物や外出の支援、レクリエーションでのドライブ、外食等をおこなっている。また、家族やなじみの方の協力を得ることで、旅行や外泊をおこなっている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭を自己管理できる方は自分で財布を持っていたり、そうでない方もホームで財布を預かっていることへの理解をいただき、いつでも使えることの説明をおこなっている。買い物の際も自分で支払ができるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>遠方の家族や親類に近況報告を含め本人から手紙を出したり、年賀状と一緒に書くなどの支援を実施している。電話は家族と話し合っ、本人の希望に沿ってかけられるように支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気がつくれるよう心掛けている(スタッフ自らも環境の一部であると認識して)その時期にある草花、季節感のある装飾、利用者の作品等の展示などに心掛けている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の居心地が良い場所の把握と、そこで過ごせる支援をおこなっている。人間関係のトラブルやマナー化を防ぐ意味で、意図的に違う席で過ごしていただいたり、席替えをおこなうようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っていた馴染みの家具などがある場合は可能な限りで持ち込むようお願いしている。家族の写真や好きなものを飾ることで安心できる空間になるよう心掛けている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家族の了解が得られた方は居室前に名前を掲示したり、「お手洗い」などのわかり易い表記にしている。また居室内においては、転倒に対する危険意識が低下している方でも安全に生活できるような家具配置などを工夫している。		

目標達成計画

作成日：平成27年3月4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	2ヶ月毎の運営推進会議が、主に2か月間の活動報告になってしまいマンネリ化している。また、ご家族以外の参加者も固定しており、会議に広がりがない。ホームのスタッフも会議での意見交換などに興味をもてていない。	新たな地域参加者を増やしていく(警察署、消防署、学校等)。また、ホームのスタッフに参加してもらうことで会議の内容をより具体的に知る機会にする。	新たな参加者獲得のために、警察署・消防署・保育園・近隣商店主・学校などに会議の説明と参加のお願いに行く。また、会議の内容も再検討する。	6ヶ月
2			夏祭り、防災訓練と合わせた会議は実施できたので、更に行事や研修などと合わせた会議を開催する。	フロアリーダーやスタッフ等、参加できる職員がいれば参加してもらう。また、会議録は必ず全職員が目を通すこととする。	6ヶ月
3				大きな行事でなくても、日常の利用者の様子がわかるような活動に参加してもらう(おやつ作り等)。	6ヶ月
4	10	玄関に意見箱が設置されているが、設置後に一度も意見が投函されていない。	意見箱が活用され、ご家族などからの意見が運営に反映され、ホームの質の向上が図られる。	意見を記入する用紙を、アンケート方式にするなどの検討をおこない、意見の出やすい用紙に変更する。	3ヶ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。